

おっぱいだより

17号

今年の冬も大雪で、朝早く雪かきをしてから出勤、という方も多かったことでしょう。そんな寒さも緩んで、春の訪れを感じるようになってきました。さて、今月は母乳育児の大切なパートナー、NICUのことについて紹介をしたいと思います。

新生児内科でも母乳育児を推進しています



どんな赤ちゃんにとっても母乳育児は素晴らしいものですが、小さい赤ちゃんにとってはとても大切になります。小さい赤ちゃんは、すべてが未熟な状態で生まれてきます（消化、吸収、抵抗力など）。そんな赤ちゃんにお母さんの母乳はぴったりなのです。赤ちゃんの腸にやさしい消化吸収しやすい脂肪の大きさだったり、母乳には生きた細胞が入っているので悪い細菌を攻撃してくれたり、不足する栄養素が他のお母さんのおっぱいより多く含まれていたりするのです。なので、NICUでは母乳を大切にしています。

ではどんな事を実際に行っているのでしょうか。

まずは妊娠中から。

産前訪問で母乳のお話をしています。産前訪問自体はNICUに入院になることへの不安を軽減するために、希望する妊婦さんにおこなっています。その中に母乳の大切さをプラスして説明しています。

実際に赤ちゃんが生まれてNICUに入院になったら。

お母さんが面会に来られたら、その場で搾乳をしてもらっています。赤ちゃんの前で搾乳をすると、おっぱいの出かたが違ってきます。

その搾乳したおっぱいを綿棒につけて、ご家族の手で赤ちゃんのお口に入れてもらっています。赤ちゃんが経管栄養中でまだおっぱいを直接吸わせたことのないお母さんでも、自分の手からおっぱいをあげることができることで自信につながります。赤ちゃんもお母さんのにおいを直接感じる事ができますし、感染しやすい口腔内に母乳が入ることで感染予防の効果もあるのです。

おかあさんの
おっぱいおいしいよ





電動搾乳器も使用しています。NICUのお母さんは長期に搾乳することになりますので、疲れずに長期に搾乳を続けていける方法を見つける事も大切です。数年前、海外ドラマの「ER」の中で、産後復帰した先生（主役）が仕事中に当院の電動搾乳器と同じものを使って搾乳をしていました。アメリカはこんなところでも母乳育児をアピールするんだなあと思っていました。



おっばいだけでなく、親子の愛着も大切にしています。カンガルー抱っこで親子のスキンシップをはかってもらっています。はだかんぼの赤ちゃんを直接胸に抱いてもらいます。肌と肌が直接触れ合うので親子の信頼関係ができますし、赤ちゃんも落ち着き、安定するので成長・発達にも有効です。お母さんはおっばいに関係するホルモンが良く出るようになり一石二鳥です。もちろん親子のスキンシップなのでお父さんもカンガルー抱っこをしてもらっています。赤ちゃんを直接抱っこして、重さやぬくもりを感じ、赤ちゃんの成長を実感します。

保育器からでたら、直接おっばいを吸ってもらっています。今まで搾乳でがんばってきたお母さんにとって、自分のおっばいに吸いついてくれた時は、一番の喜びの場だと思います。これからも母乳育児をすすめていけるように、一緒に喜び、今までのことをねぎらいます。



無事 NICU を退院したら。

授乳外来でおっばいをがんばっている親子を応援しています。産科の助産師と一緒に毎日行っています。

育児指導も希望者に行っています。おっばいだけでなく、育児全般の相談を受け、退院後も赤ちゃんの成長と一緒に確認してよろこんでいます。



「赤ちゃんにやさしい病院」の申請をして、書類審査を通過しました。4月28・29日に現地視察となります。いろいろな方にご協力をお願いすることになりますが、よろしくお願ひします。